

あ お や ほ な み
① 青 谷 穂 波

日本海のように
波打つ稲穂

弥生時代は稲作（米づくり）が始まった時代で、青谷上寺地遺跡でも田んぼが営まれていました。秋の収穫の時期、稲は実ると穂が重みで垂れ下がります。爽やかな風になびき、揺れる様子は、きらきらと輝く海や「波」を連想させます。

豊かに実った稲「穂」と海のイメージを合わせもち、やわらかい響きを感じ、さらには生き生きとした弥生の人々のイメージも思い浮かんでくる、そんな青谷上寺地遺跡をイメージした女性の名前です。

あ お や み ず ほ
② 青 谷 瑞 穂

稲作文化が育んだ
豊かな弥生の社会

「瑞穂」とは「みずみずしい稲穂」という意味です。日本は「瑞穂の国」と呼ばれることがあるように、稲作は弥生時代から本格的に始まりました。青谷上寺地遺跡でも田んぼの跡のほか、炭になった米、スキやクワ、石包丁といった、稲作の痕跡や使用した農具がたくさん見つかっています。

稲作の普及は、それまでの社会を大きく変えることとなりました。そのような時代の変化の中、実り豊かな青谷の地で生きていた女性をイメージした名前です。

あ お や し お ね
③ 青 谷 潮 音

波音が響く日本海
からの恩恵

現在の青谷は田んぼが広がる平野の地形です。弥生時代は入江が形成されており、一面に穏やかな内海が広がっていました。青谷の弥生人はこの内海を通じて日本海へ漁や交易に出かけるなど、海の恩恵を大いに受けた暮らしでした。

当時の人々は、海から来る絶え間ない「潮」の音を聞きながら生活していたことでしょう。また、「音」は長い時を経て私たちに何かを伝えようとしている、「声」や「メッセージ」もイメージしています。

あ お や こ と み
④ 青 谷 琴 海

ものづくりの技と
交易で発展

青谷上寺地遺跡からは、弥生時代の木製の琴が10点も出土しており、その数は全国最多です。琴は豊作や航海の安全を祈るため、祭りや神事で演奏したとされる神聖な道具でした。青谷から出土した琴にはサメの絵が描かれたものもあります。弥生時代においてサメの絵は他の地域ではほとんど見られない、特徴的な要素です。

青谷で作られた琴は、交易品としても数多く海を渡り、青谷上寺地遺跡は技と海で大いに発展したでしょう。「琴」と「海」により栄えたことをイメージした名前です。

鳥取県は“弥生の王国”

「青谷上寺地遺跡」や米子市・大山町の「妻木晩田(むきばんだ)遺跡」など、弥生時代の多くの痕跡(こんせき)が残っている鳥取県を「弥生の王国」と呼んでいます。鳥取県は、弥生の王国を楽しむ、学んでもらえるよう、様々な取り組みをしています。

史跡公園に行ってみよう!

青谷上寺地遺跡や出土品を深く知り、楽しんでもらうため、2024年3月にオープンした「青谷かみじち史跡公園」。自分の目で復顔像も見よう!

